

日汉成语谚语辞典

辽宁人民出版社

日汉成语谚语辞典

金 中 编

辽宁人民出版社

1989年·沈阳

日汉成语谚语辞典

Rihan Chengyu Yanyu Cidian

金 中 编

辽宁人民出版社出版 辽宁省新华书店发行
(沈阳市南京街6段1里2号) 沈阳新华印刷厂印刷

字数: 346,000 开本: 787×960 1/32 印张: 16 1/4 插页: 5

印数: 1—1,181

1989年12月第1版

1989年12月第1次印刷

责任编辑: 陈连守 朱平石 封面设计: 李国盛

ISBN 7-205-01082-9/H·21

定 价: 9.25元

前 言

随着中日两国关系进入了历史的新阶段，两国人民的友好往来和经济、科学、文化交流的日益频繁，我国人民学习日本语言者不断增加。人们需要各种类型的日汉辞典，其中也包括这样一部《日汉成语谚语辞典》。

日本的成语、谚语，从古代起就受中国的影响。中国的《韩非子》《说苑》《淮南子》等古籍早已传到日本，在日本早年出版的成、谚语集中，出典于中国古籍的约占三分之一。诸如“百闻不如一见”“入乡随乡”“不入虎穴，焉得虎子”等中国名谚，至今仍在沿用，足见两国文化出于同一渊源，相互影响。

日本早期的成、谚语集，最早有《北条氏直时代谚留》，它收集的谚语数量少，解释也不完全。至1645年开始有《毛吹草》（松江重赖著，共七卷五册）。《毛吹草》，顾名思义，出典于中国成语“吹毛求疵”，全书充满诙谐、幽默情调。至1656年，又有《世话尽》问世，作者是土佐地方圆满寺的和尚空额，收集成、谚语共770余条，其中约330条与《毛吹草》重复。但《世话尽》比《毛吹草》更为洗练、有力，具有浓厚的生活气息，有的比喻一针见血，入木三分，令人拍案叫绝。

此外，尚有《谚苑》，作者太田全斋（1759～1829）对汉学造诣颇深，著有《韩非子翼彙》。他在《谚苑》的自序中写道：“鄙言俚语，脍炙人口者，世世而传，方方而诵，自古在昔盖如是矣。其所由来尚矣，其所普及广矣。余爱其尚且广，又惜善谣之湮没，笑谈之际，随闻辄记，累积为册，命为《谚苑》”。其编纂之动机，由此可见。

与《谚苑》同时代的谚语集，尚有《譬喻尽》，作者川濑氏，号松叶轩。所收集的成、谚语以《徒然草》《伊势物语》为主，出典于汉籍的，大多引自《论语》，没有特色。

到了明治时代，主要成、谚语辞典则有《皇国俚谚丛》（松本真弘著）、《谚语大辞典》（藤井二男著）、《俚谚大辞典》（中野吉平著）等书。战后则有铃木棠三、广田荣太郎合编的《故事ことわざ辞典》，高桥源一郎编的《故事成语谚语辞典》等书。这些辞典各有特色，如《谚语大辞典》收集范围广；《故事ことわざ辞典》着意收集地方的农谚和俗谚；《故事成语谚语辞典》则侧重于收集汉语成、谚语。

本辞典参照了铃木棠三、广田荣太郎合编的《故事ことわざ辞典》，高桥源一郎编的《故事成语谚语辞典》，折井英治编的《暮らしの中のことわざ辞典》，井上丰、沟江德明合编的《評釈ことわざ辞典》以及尚学图书编的《故事俗、信ことわざ大辞典》等。全书共收成语、谚语和俗语等5,000余条，其中主要是和语成、谚语，占五分之四，汉语成、谚语次之，占五分

之一。

成语、谚语的形成，具有悠久的历史，它是人民群众通过长期观察了解社会现象和自然现象所取得的规律性的认识结晶。在任何一个民族语言中，它都具有结构简洁、语句精炼、生动形象和寓意深刻的特点，绝大部分都是语言的精华。但是也有少量语句失之雅正，却仍被人们所沿用，我们对此也有所收录，以便读者参考。

由于编者水平所限，虽经多方研讨，但仍不免有谬误和疏漏之处，尚望读者批评指正。

本书初稿成于1972年，由于当时缺少必要的参考书和资料，内容不够充实。后来得到辽宁人民出版社的支持和帮助，又做了进一步的修改。辽宁人民出版社外文编辑室同志在审稿中对原有条目有所删减，补充编写了部分内容，并对全书进行了审定。此间承薛亥同志审阅了全稿，并提供了许多宝贵意见，谨向他们致以深切的谢意。

金 中

1986年11月

凡 例

一、条目顺序，按日语假名顺序排列，第一个假名相同的，则按第二个假名的顺序排列。以下依此类推。

二、关于日本成语、谚语的译释，采取如下几种形式：

1. 首先直译，以保持原文风格，然后再作意译，并尽可能用意义相同的中国成语、谚语、俗语等作为对应句，以利于读者对条目的理解。

2. 对于某些条目，适于采取对仗压韵形式的，即不作直译、意译。如“鬼も十八番茶も出花”，即直接译为“丑女妙龄也好看，粗茶乍泡亦芳香”。凡其中能加对应句的，也加对应句。

3. 对于某些条目，适于采取歇后语式译法的，则译为歇后语式，并尽可能加上适当的对应句。如“青菜に塩”译为“青菜上撒盐，蔫了”，对应句则为“无精打采”、“垂头丧气”。

4. 对某些不能直译或无需直译的条目，即直接进行意译，并尽可能加上对应句，以求理解该条目的原意。

5. 同一条目，有几种不同意义的，即用①②③……标示，并将常用的列在前面。

6. 同一条目，有几个意义相似的成语、谚语可作对应句时，即将它们加以并列，不标顺序。

三、对于来源于中国的成语、谚语，由日语还原成汉语之后，一般的不作意译。但对其中比较难懂的，则在括号内加以说明。

四、条目及参考条目的汉字，均注以日语现代假名的读音。

五、条目前后用【 】表示，对应句（包括中国古典原句）前则用△表示。其他则用明体字，以便使之醒目。

六、条目的出处，采用书名号处理（日语用〈〉、汉语用《》）。如同一条目有两个以上意义和出处时，则将各该出处分别列在各该译释之后。

七、“参考”栏中所列条目，系类似的成语、谚语。限于篇幅，只举其中主要的，供作参考。

八、译释中的（喻），系各该条目的引申意义。对于有几个引申意义的，则以①②…标示。

九、对于意义相同的条目，只在一处加以译释，其他条目，则采取指见（→）方法，以避免重复。

あ

【あ^い言^いえ^いば^いこ^いう^い言^いう^い】你说东,他说西。△各执一词。

〔参〕右^{みぎ}と言^いえ^いば^い左^{ひだり}。山^{やま}と言^いえ^いば^い川^{かわ}。

【愛^{あい}屋^{おく}鳥^うに^お及^よぶ】△爱屋及乌。《尚书大传・大战》

〔参〕屋^{おく}鳥^うの愛^{あい}。

【挨^{あい}拶^{さつ}は^と時^{とき}の^う氏^じ神^{がみ}】→時^{とき}の^う氏^じ神^{がみ}

【愛^{あい}して^しその^し醜^{しゅう}を^わ忘^する】爱^{あい}而^し忘^す其^し丑^{しゅう}。△情人眼里出西施。

〔参〕痘^{あばた}痕^{えくぼ}も^こ醫^い。恋^こは^こ盲^{もう}目^{もく}。

【開^あいた^{くち}口^はへ^は牡^ぼ丹^{たもち}餅^{もち}】天^あ上^{くち}掉^は馅^ぼ餅^{たもち}。△福^あ自^{くち}天^は降^{たもち}。

〈紙^あ子^{くち}仕^{だんご}立^{たな}両^ぼ面^{たもち}鑑^{かた}〉

〔参〕開^あいた^{くち}口^はへ^は団^{だんご}子^{たな}。棚^ぼか^{たもち}ら^か牡^ぼ丹^{たもち}餅^{もち}。

【開^あいた^{くち}口^はが^{ふさ}塞^{ふさ}が^{ふさ}ら^{ふさ}ぬ】△目^あ瞪^{くち}口^は呆^{ふさ}。△呆^あ若^{くち}木^{ふさ}鸡^{ふさ}。

〈浮^あ・御^{くち}前^{ふさ}義^{ふさ}經^{ふさ}記^{ふさ}・五〉

〔参〕あ^{くち}いた^{ふさ}口^{ふさ}も^{ふさ}塞^{ふさ}が^{ふさ}れ^{ふさ}ぬ。〈淨^あ・仮^{くち}名^{ふさ}手^{ふさ}本^{ふさ}忠^{ふさ}臣^{ふさ}蔵^{ふさ}・三〉

【あ^あいだ^あて^あない^あは^あ祖^あ母^あ育^あち^あ】任^あ性^あ的^あの^あ子^あは^あ奶^あ奶^あ慣^あ的^あ。

〔参〕祖^あ母^あ育^あち^あは^あ銭^あが^あや^あす^あい。年^あ寄^あ育^あち^あは^あ三^あ文^あ安^あ。

い。

【相手^{あいて}変れど主^{ぬしかわ}変らず】任你千变万化，我有一定之规。△以不变应万变。〈親仁形氣・二〉

【相手^{あいて}のさする功名^{こうみょう}】对方失策我成功。

〔参〕敵^{てき}のさする功名^{こうみょう}。

【相手^{あいて}の無い喧嘩^{なけんか}は出来ぬ】没有对手，打不起架来。△一个巴掌拍不响。〈女房形氣・二三下〉

〔参〕相手^{あいて}無ければ訴訟^{そしょう}無し。一人喧嘩^{ひとりけんか}はならぬ。

ぬ。

【愛^{あい}に愛持^{あいも}つ】爱上加爱。钟爱。〈菅原伝授手習鑑四〉

【藍^{あい}より出^いでて藍^{あい}より青^{あお}し】→青^{あお}は藍^{あい}より出^いでて藍^{あい}より青^{あお}し

【逢^あうた時^{とき}に笠^{かさ}を脱^ぬげ】见人先施礼，机会莫错过。

〈咄・輕口露がはなし・一〉

【合^あうは別^{わか}れの始^{はじ}め】△合者离之始。（喻）人生聚散无常。《白氏文集・卷十四》

【仰^{あお}いで天^{てん}に愧^はじず】仰不愧于天。△俯仰不愧于天地。

《孟子・尽心上》

〔参〕俯^ふ仰^{ぎょう}天地^{てんち}に愧^はじず。

【青柿^{あおかき}が熟^{じゅく}柿^し吊^{ともら}う】青柿子哀叹落地的熟柿子。

△兔死狐悲，物伤其类。〈傾城恋飛脚〉

【参】昨日は人の上、今日は我が上。人の事は我が事。
き の う ひ と う え きょう わ う え ひ と こ と わ

【青菜に塩】青菜上撒盐，焉了。△无精打采。△垂头丧气。〈女房形気・二三下〉
あお な しお

【参】青菜を湯につけたよう。菜の葉に塩をかけたよう。
あお な ゆ な は しお

【青は藍より出でて藍より青し】△青出于蓝而胜于蓝。《荀子・劝学》
あお あい い あい あお

【参】氷は水より出でて水より寒し。出藍のほまれ。
こおり みづ い みづ さむ しゅつらん

【赤子の手をひねる】拧婴儿之臂，不费吹灰之力。
あか こ て

△①易如反掌。②以强凌弱。

【垢を洗うて痕を求む】△洗垢求癢(痕)。△吹毛求疵。〈伎・鶴千歳曾我門松・中暮〉《刘向新论・伤谗》
あか あら あと もと

【参】毛を吹いて疵を求む。藪をつついて蛇を出す。
け ふ きず もと かぶ へび だ

【秋高く馬肥ゆ】△秋高马肥。《杜审言诗》
あきたか うまこ

【明店の恵比須様】空房子里的福神。△自得其乐。
あきたな え び すさま

【空樽は音が高い】空桶敲得响。(喻)知识浅薄的
あきたる おと たか

人好发议论。△一瓶子不满半瓶子摇。

【参】浅瀬に仇浪。食いつく犬は吠えつかぬ。
あさせ あだなみ く いぬ ほ

【商は牛の涎】做生意象牛流口水那样。经商要
あきない うし よだれ

有耐性。〈浮日本新永代蔵・二〉

【秋の扇】^{あき おおぎ}秋天的扇子。△秋扇见捐。（喻）妇女色衰被丈夫遗弃。《班婕妤·怨歌行》

〔参〕^{はんじょ おおぎ しゅうせん}班女が扇。秋扇。

【秋の鹿は笛に寄る】^{あき しか ふえ よ}秋鹿逐笛声（秋天母鹿发情，公鹿被猎人模仿母鹿鸣声的笛声所吸引而误入圈套）。（喻）弱点容易被人利用。△因色丧身。△雪后麻雀易上套。〈曾我物語・六〉

〔参〕^{つまこ しか ふえ よ ふえ よ しか ひ よ}妻恋う鹿は笛に寄る。笛に寄る鹿火に寄る虫。

【秋の日は釣瓶落し】^{あき ひ つる べおと}秋天落日象吊桶落井一样快。

△秋日易暮。〈伎・牡丹平家譚〉

〔参〕^{あき ひ なたおと}秋の日の鉦落し。

【明家で声喰らす】^{あきや こえか}对空房子喊哑了嗓子也没人答应。△徒劳无益。

〔参〕^{あきや ほうふ がくや こえ}明家で棒振る。楽屋で声からす。

【商人の子は算盤の音で目をさます】^{あきんど こ そろばん おと め}商人的孩子一听算盘响，就来精神。△习与性成。

〔参〕^{こじき こ ち・わん おと め}乞食の子は茶碗の音で目をさます。武士は轡^{くつわ}の音で目をさます。

【商人の空誓文】^{あきんど そらせいもん}商人的誓言不足信。△商人嘴里没真话。〈吾吟我集・六〉

あくさい ひゃくねん ふさく
【悪妻は百年の不作】△妻子不賢，倒霉百年。

〈通俗〉

あくさい ろくじゅうねん ふさく にょうぼう わる ろく
【参】悪妻は六十年の不作。女房の悪いは六
じゅうねん ふさく
十年の不作。

あくじせんり はし
【悪事千里を走る】△（好事不出門）坏事传千里。

《北梦琐言・六》

あくじせんり かく ことせんり
【参】悪事千里。隠す事千里。

あくじ み
【恶事身にかえる】作恶事，报在自身。△恶有恶
报。〈毛吹草・二〉

【参】じごうじとく み から で さび あくじ み
自業自得。身から出た錆。恶事身にとま
る。

あくしょう もっ これ な なか
【恶小なるを以て之を為すこと勿れ】△勿以恶小
而为之。《三国蜀志・刘先主传》

あくせん み つ
【恶銭身に付かず】不义之财理无久享。△悖入悖
出。〈伎・三人吉三郎出買・序幕〉

【参】ひとあか み ふ ぎ ふう ま ふうん こと
人垢は身につかぬ。不義の富貴は浮雲の如
し。

あくち ま わかも
【口頭瘡も切れぬ若者】奶牙未退的孩子。△乳臭未
干。〈浄・姫山姥・一〉

【参】くち ま くち しろ
口わき黄ばむ。口わき白し。

あく つよ ぜん つよ
【悪に強ければ善にも強し】能干坏事的人，一旦悔
改，做好事也有本领。△浪子回头金不换。〈毛吹

草>

〔参〕 ^{あく}悪に ^{つよ}強きは ^{ぜん}善にも ^{つよ}強し。 ^{ぜん}善に ^{つよ}強ければ ^{あく}悪にも ^{つよ}強し。

【悪^{あく}の報^{むくい}は針^{はり}の尖^{さき}】作坏事报在眼前。△现世现报。

〈荒御霊新田神徳・九〉

〔参〕 ^{いんか}因果は ^{さら}皿のふち。

【悪^{あく}は一旦^{いったん}の事^{こと}なり】作恶只能得势一时。〈曾我物語・二〉

〈参〉 ^{あく}悪は一旦^{いったん}なり。

【顎^{あご}で蠅^{はえ}を追^おう】用下巴赶苍蝇。(喻)①体力衰弱。

②精疲力竭。

〔参〕 ^ひ火を ^ふ吹く ^{ちから}力もない。 ^{おとがい}頤^{はえ}で ^お蠅を追う。

【顎^{あご}を吊^{つる}す】吊起下巴。(喻)难以餬口。〈東海道四怪談・四幕〉

〔参〕 ^{あご}顎が ^{ひあが}干上る。

【顎^{あご}を外^{はず}す】笑掉下巴。△笑掉大牙。

【朝起^{あさおき}は三文^{さんもん}の徳^{とく}】早起三朝顶一工。〈伎・日本晴伊賀報讎・大詰〉

〔参〕 ^{あさおき}朝起は ^{なな}七つの ^{とく}徳あり。 ^{あさおき}朝起は ^{ふうき}富貴のもと。

^{はやおきさんりょうけんやくごりょう}早起三両 儉約五両。

【朝駟^{あさがけ}の駄^だ賃^{ちん}】晨马驮载。△轻而易举。〈天智天皇・五〉

【参】朝あさの時間じかんは口くちに黄金おおごんをくわえている。

【浅瀬あさせに仇浪あだなみ】浅滩起浪。（喻）见识浅薄的人好夸夸其谈。△瘦狗吠声高。〈古今集・一二三〉

【参】瘦やせ犬いぬは吠ほえる。空樽あきだるは音おとがたか高い。

【朝題目あさだいもくに宵念仏よいねんぶつ】朝念莲花经，暮念“阿弥陀”。

（喻）没有主见。△朝三暮四。△反复无常。〈摄州合邦辻・下〉

【参】朝題目あさだいもくに夕念仏ゆうべねんぶつ。

【朝出た跛あさで ちんぱには追付おいつかぬ】早走的瘸子追不上。△笨鸟先飞。

【参】朝油断あさゆたんの夕屈ゆうかがみ。

【麻あさの中の蓬なか よもぎ】△蓬生麻中，不扶自直。《荀子・劝学》

【参】麻あさにつるる蓬よもぎ。朱しゅに交まじわれば赤あかくなる。

藪やぶの中なかのうばら。

【朝跳ねあさは ゆうの夕ゆうびっこ】早晨猛跳晚上瘸。（喻）有前劲儿没后劲儿。

【参】朝油断あさゆたんの夕ゆうかがみ。小馬こうまの朝駈あさがけ。

【朝風あさ ふう呂丹ろたん前ぜん長火鉢なが ひばち】晨浴后穿着睡衣，烤火盆。△悠然自得。

【麻あさを担になって金かねを捨すつ】舍掉黄金担草芥。△拣了芝麻丢了西瓜。〈大宝積經・八〇〉

〔参〕玉を還して置を留む。

【朝に紅顔あって夕に白骨となる】△朝为红颜，暮为白骨。〈和漢朗詠集・下〉

〔参〕朝の紅顔夕の白骨。

【朝に道を聞けば夕に死すとも可なり】△朝闻道，夕死可矣。《论语・里仁》

【朝に夕を謀らず】△朝不谋夕。（亦作朝不虑夕）《左传・昭公元年》

〔参〕朝に夕を慮られず。

【足下から鳥が立つ】脚下突然飞出鸟。△突如其来。〈毛吹草〉△张皇失措。〈世間胸算用・四〉

〔参〕足下から竜が上る。足下から雉が立つ。

【足下に火がつく】脚下起火。△大祸临头。△危在旦夕。

〔参〕足もとから火がつく。尻に火がつく。

【足下の明るいうち】趁着天未黑。△赶早不赶晚。

△事不宜迟。〈狂言・東西離〉

〔参〕足もとの明るいうち。

【足を洗う】洗手不干。△改邪归正。〈滑・浮世床・初〉

【足を削りて履に適せしむ】△削足适履。《淮南子・说林训》

【足を搗粉木にする】累得两腿成木棒。腿都跑直了。△疲于奔命。

〔参〕足を棒にする。足を搗木にする。

【預り物は半分の主】寄存的东西可作一半主。〈毛吹草・二〉

〔参〕預主は半分。預け物は半分の主。

【明日の事を言えば鬼が笑う】谈论未来，鬼都见笑。

〔参〕来年の事を言えば鬼が笑う。三年先の事を言えば鬼が笑う。

【明日の百より今日の五十】明天得一百，不如今天得五十。△天上的仙鹤不如手中的麻雀。△到手是功名。

〔参〕末の百両より今日の五十両。先の雁より手前の雀。

【東男に京女】东京少年配京都淑女。△郎才女貌。〈神靈知渡・四〉

〔参〕京女に江戸男。京女に奈良男。

【遊びに師無し】吃喝玩乐不用人教。

〔参〕恋に師匠なし。

【頭が動けば尾も動く】头动尾随。△上行下效。

〔参〕上を倣う下。上を学ぶ下。